

SHIRAKOBATO

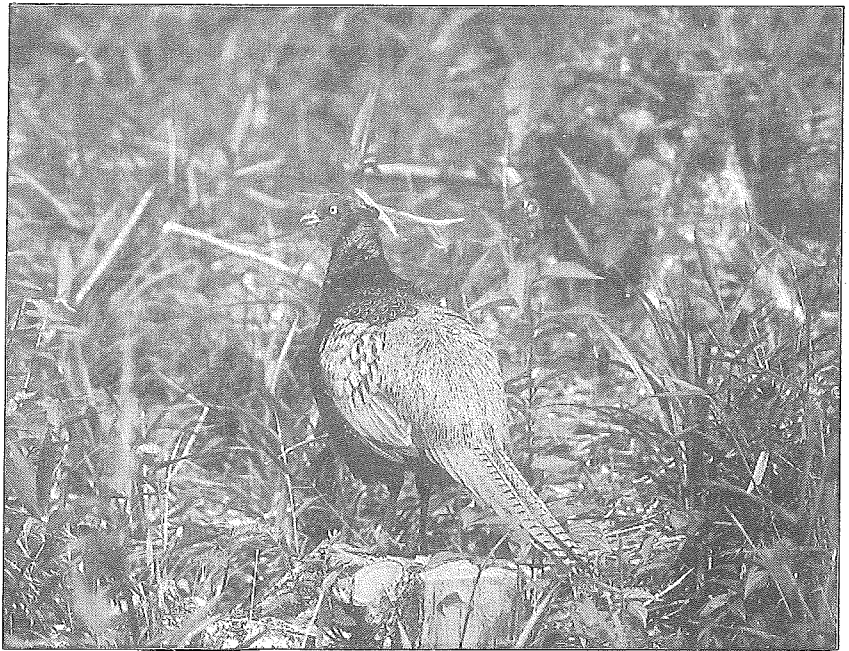
しらこぼと



1993. 1

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 104

日本野鳥の会 埼玉県支部

不思議 キタミソウ

越谷に住んで11年。不思議が二つある。シラコバトとキタミソウ。その一つ、「シラコバトは、なぜ、越谷を中心とした関東地方の一部にしか分布しないのか」、これは諸説あって私の手と頭にはおえない、パス。その二つめ、キタミソウ。この聞き慣れない植物、生息地はタイガやツンドラと呼ばれる北ヨーロッパやシベリア、千島列島、樺太という。この北国の植物がなぜか熊本市の江津湖と、ここ越谷の周辺に自生している。

で、今月号は「なぜ、キタミソウは越谷に自生しているのか」、この不思議に、個人的な思い込みや偏見なしに鋭く迫りたい。キーワードは「キタミソウ、越谷、溜井、鴨」だ。

キタミソウって何？

このキタミソウ、白や薄ピンクのかわいい小さな花を咲かせる。いま現在、越谷市役所前の葛西用水や松伏町との境を流れる古利根川の河川敷に咲いている。

実はこの二カ所、春と夏はそれぞれ瓦曽根溜井、松伏溜井として堰で水を止め、満々と水をたたえている。秋、その水を落とした後に、あっという間に、キタミソウの鮮やかな緑が広まっていく。ぜひ、見ていただきたい。足がもぐるくらいの水辺（写真1）に、手入れの悪い芝生のようにモシャモシャ・ドッサリ生えているのがキタミソウ（写真2）だ。学名 *Limosella aquatica*（リモセラ・アクアチカ）、ごまのはぐさ科キタミソウ属。北海道の北見で初めて採集されたことがその名の由来らしい。茎の長さ2~5cm、葉は長柄でへら状（写真3）、花は鐘形状で先が5つに分かれ、大きさは2~3mm。小さい花なので、かがみこんでモシャモシャ・ドッサリと



（写真1）

手でかき分けてほしい。立ったままでは花を見落としやすい。

キタミソウがなぜ越谷に？

北国のキタミソウと越谷を結ぶものは何か。意見の別れるところだが、渡り鳥の鴨が運んできたとみる説、もともと自生していたとみる説がある。が、両説とも資料は少なく詳しいことは分からないのが現状らしい。

しかし、私にはわかるんですよ。鴨ですよ、鴨。鴨説ですよ。鳥見人には、なんの疑問もなく、スパッと頭に入ってくる。思い込みや偏見では決してない。ウン、鴨説は絶対に正しい。

では、その鴨はナニガモなんじゃ

しごく当然の疑問だ。そこで私は自分のフィールドノートを繰ってみる。瓦曽根溜井、松伏溜井は私のフィールドでもある。

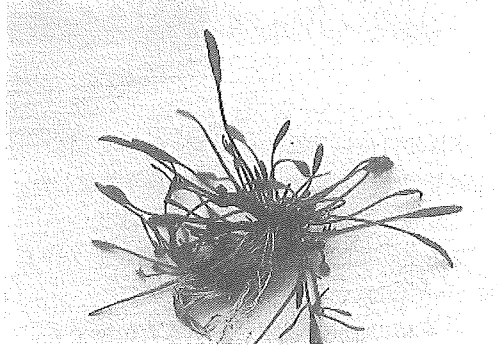
特に松伏溜井では、観察を始めて今までに12種のカモ類が、毎年700~900羽ほど飛来。多いのはオナガガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモで、各々150以上の数だ。他は20を切る。

この4種に絞り、繁殖地域がキタミソウの分布域と重なるカモを拾い出すとカルガモが消える。

食性も調べてみる。本当は胃を切り開いて調べたいところだが、現代では清棲幸保『野鳥の辞典』に頼る。これによると残り3種とも似たような植物質を主食としているのだが、ヒドリガモだけには「~水藻類を好み~」の



(写真2)



(写真3)

文言が付け加えられている。クタミソウの学名の一部アクアチカは「水性の」と言う意味でもある。瓦曾根溜井、松伏溜井の河川敷でも水辺に近いほど、モシャモシャ・ドッサリ・アオアオ生えている。水藻類と生えている場所が近いのである。ヒドリガモがくさい。

今度は松伏溜井にて望遠鏡で食性を観察する。オナガガモ、コガモ、ヒドリガモとも河川敷では、『野鳥の辞典』に記載されている食物を食べている。その中でもヒドリガモが一番よく河川敷に上がり引切り無しに採食している。しかも、コイヌガラシとクタミソウを好んで食べている。オナガガモ、コガモはクタミソウが自生している水辺より離れて自生している植物を食べている事が多い。

ここに至り、私の望遠鏡には見えるのである。シベリアでクタミソウをムシャムシャ食っているヒドリガモの姿が、ハッキリと。ついでに、クタミソウの種が胃の中で運ばれ、松伏溜井でプッと尻から出てくる様子までが、アリアリと。

クタミソウがなぜ越谷で？

まだ疑問がある。ヒドリガモはそれこそ日本全国飛来する。なのに、クタミソウがなぜ越谷で自生できるのか。

そこで「越谷の自然を調べる会」の飯島真会長に尋ねてみた。

「越谷のクタミソウは、夏は種のまま冷たい水中で過ごし、水が少なくなる秋に発芽、秋から春にかけて花を咲かせる1年草と越年草の二つの性格を持っているようです。春に

水を入れ、秋に水を落とす瓦曾根溜井、松伏溜井は、クタミソウにとって北国と似た生息条件をつくりだしていると思われます」と、教えていただきました。

つまり、クタミソウにとって溜井はシベリアなのだ。ビックリである。合わせて会長は、「ヒドリガモがクタミソウを運ぶとしても、越谷と似た条件の溜井は国内にはたくさんあるのにねえ」と付け加えた。

『しらこぼと』No. 67でも述べたが、地元を観察することは実に楽しい。観察が増えると疑問も増える。ああでもない、こうでもないで自分で謎解きが始まる。と、酒がいる。

(山部直喜)

<参考文献>

- 岩槻市史編さん室 1983 岩槻市史植物編 岩槻市
- 大井次三郎 1976 日本植物誌 至文堂
- 中村純 1967 花粉分析 古今書院
- 越谷の自然を調べる会 1986~1990 越谷の自然No. 1~No. 5. 越谷の自然を調べる会
- 越谷市環境保全課 1990~1991 クタミソウ緊急調査報告書No. 1~No. 2 越谷市
- 牧野富太郎 1986 コンパクト版2原色牧野日本植物図鑑II 北隆館
- 清棲幸保 1966 野鳥の辞典 東京堂出版
- 日本鳥類保護連盟 1988 鳥630 図鑑 日本鳥類保護連盟
- 日本野鳥の会 1982 フィールドガイド日本の野鳥 日本野鳥の会

1992年 秋のシギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

9月15日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が会員多数のご協力で実施されました。ご協力ありがとうございました。

大久保農耕地で観察されたのはムナグロ1種、10羽のみでした。

1週間程前から観察している人の話でも、今年は1羽もシギ・チドリの姿が見られないということでした。

これは8月なかばからの記録的な晴天続き

で田圃にまったく水が残っておらず、シギ・チドリが採餌できるような環境が無くなってしまったためと考えられます。

一方、阪東大橋では11種57羽観察されました。

こちらのほうには昨年のデータはありませんが、ハマシギが24羽観察されている点を除いて一昨年とほぼ同程度の数が観察されています。入間川は昨年と同様のデータでした。

(執筆・写真 登坂久雄)

表 1992年秋 シギ・チドリ類調査結果

調査日 9月15日

調査場所 時間 天候	大久保農耕地 (浦和市・大宮市) AM 9:30~11:30 曇り		利根川：阪東大橋 (本庄市) AM 8:30~11:30 曇り時々晴れ		入間川：豊水橋下流 (狭山市) AM 8:30~10:00 曇り	
	1991年	1992年	1991年	1992年	1991年	1992年
タマシギ	1					
イカルチドリ				6	1	1
シロチドリ	2			2		
ムナグロ	142	10				
キョウジョシギ	2			1		
トウネン	2					
ハマシギ				24		
アオアシシギ				4		
クサシジ	1			1		
タカブシギ	17			1		
キアシシギ				6		
イソシギ	5			8	1	3
タシギ	185			3		
ジシギSP	8			1		
アカエリヒレアシシギ	9					
	374羽	10羽	調査データ	57羽	2羽	4羽
	11種	1種	なし	11種	2種	2種



(タシギ)

【参加者】

伊藤 芳晴	佐久間博文	倉林宗太郎
海老原美夫	桜庭 勇	渡辺喜八郎
外山 雅大	松井 昭吾	登坂 久雄
角田真喜子	松澤	桜井 尊央
吉原 俊雄	新堂 克浩	福井 恒人
吉本富美子	杉本 秀樹	福井 亘
工藤 洋三	西 勲	立岩 恒久
荒木 恒夫	石井 智	町田好一郎

伊良湖岬の思い出(92年10月10・11日)

安間昭子(富士見市)

岬は山並みに囲まれた空と海のパノラマ、早朝からトリヤさん達のプロミナの林立です。昨日の強風もやみ稜線からサシバの群れが現れます。ヒヨドリは黒い川のように山沿いに海上にと流れていきます。カケス集団も仲間に入ってヒラヒラし、何故か戻りも見ます。サシバとツミ、ハチクマなどの声がしきり。前夜の勉強会でスライドによる識別をたきこまれています。講師の川田さんが今年のタカ柱は今日が初めてとか。サシバは回りながら天空に作り上げた柱を持ちあげ、点になり、視界から消えます。雲間から日がさすと青空のサシバは美しい、ビンズイ、カワラヒワの鳴き声、ハクセキレイ、ツバメの飛翔とわくわくです。近くの山頂に輪を描くトビ達のエールの声がします。渡りを見送ると立枯れの松の色が残ります。イソヒヨドリの一羽がじっとこちらを向いている—そんなプロミナのセットに出会いました。

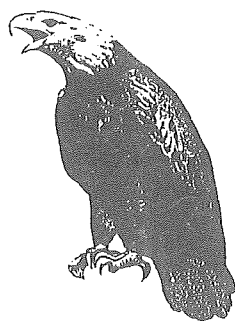
袖岡 弘(上尾市)

伊良湖岬探鳥会は、10日夜の集いから本番に入った。松井リーダーの友人で写真家の川田氏が数十年の渡りウォッチングの経験を語られ、撮りためられたスライドで説明される勉強会があった。伊良湖岬を通過するタカの上、下、横からの姿が、大きなスクリーンに写し出される楽しい講義であった。

当日の朝、恋路ヶ浜で明けやらぬ上空をじっと見上げる。川田氏も定位置につかれ、カウントが始まる第一声は「ビンズイ4、メジロ2」。上空を6つの黒点が流れて、西の古山に消えた。「カムリカイツブリ2、これは珍しい。」声の向きに、今度は低空をはばたくスリムな白い鳥。「ハチクマ1」待望の声に応じて、初めてのタカがすっと頭上を横切っていった。続いてまた「ハチクマ1」。双眼鏡にとらえるのが精一杯、去ってゆく。カウントの陰にある素早い視力、識別力、何たる修練であろうか。驚嘆の一撃である。

「サシバ14」東の宮山上空で隊形を整え、上昇気流をつかまえたサシバの群れ第一陣が

県支部の皆様、明けましておめでとうございます。今年は酉年、バードウォッチャーにとっては鳥年というわけですから、大いにアピールして、鳥仲間を増やしていきたいと思っています。



年頭にあたり、本年も埼玉県支部の伝統である“親しみ易い”、“家族的な”雰囲気を保ちつつ、野鳥を通して地球環境を守ることができるよう、一人の鳥仲間として皆様のご協力をお願いいたします。

日本野鳥の会埼玉県支部

支部長 松井昭吾

ゆっくりと円を描き、さらに高度を上げながら上空を通過し始めた。高曇りで太陽は姿を見せない夜明けだった。「サシバ12、ミサゴ1」とがった翼角と白い頭、腹部を見せて、昨夜のレッスン通りのタカがゆっくりと旋回上昇している。初めてのミサゴとの対面は首が痛い仰角での数十秒であった。そしてさらに一群、また一群とサシバが上昇、通過してゆく。渡りはタカだけではなかった。「ヒヨドリ240、戻り110」大群がさかんに渡り、またその一部が忙しく戻って来る。ことに圧巻だったのは東の宮山から西の古山までの上空を、まるで虹がかかったように、途切れることなく大きな帯となって飛翔する1000~2000の大群であった。

夜もすっかり明けはなつた。サシバの群れは続いて東から現われ、折々ツミ、ノスリが横切り、時に輪を描き、旋回上昇。そして西に去ってゆく。山地、平野で孤高のタカたちがここに集まり、そして海を渡ってゆくとは。

十分に2時間のドラマを堪能した。サシバの数も少なくなった。双眼鏡を置き、芭蕉の気持ちでゆっくりと見送ることとした。

サシバ809、ツミ、ハチクマなどタカ類8種64、ヒヨドリ約10,000が当日のカウントの結果であったと、リーダーから後報を頂いた。



ハジロカイツブリ ◇10月17日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で1羽(二村英克)。
サギのねぐら ◇10月、吹上町新宿の栄勝寺で、ほとんどがコサギですが、ダイサギ、ゴイサギ合わせて約200羽(逸見 峻)。
オンドリ ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で♂2羽、♀1羽(秋間利夫)。◇10月11日、戸田市道満調節池で♀1羽。17日、同所で♂3羽、♀1羽(駒崎政雄)。◇10月18日、滑川町の森林公園のあざみくぼ沼で♂1羽(倉崎哲郎)。
トモエガモ ◇10月3日、戸田市道満調節池でエクリプス♂2羽(駒崎政雄)。
オカヨシガモ ◇9月23日、浦和市下大久保鴨川排水機場でエクリプス♂1羽(小林みどり)。
ハシビロガモ ◇9月28日、富士見市の新河岸川、袋橋～いろは橋間で♀1羽(中司隆由)。
クビワキンクロ ◇10月11日、戸田市道満調節池でエクリプス♂1羽。その後、不忍池で確認された(駒崎政雄)。
ミサゴ ◇9月29日午前9時、本庄市の阪東大橋下流で1羽。小雨煙る中、下流よりフライト。3回目のダイビングで見事鮎を捕らえる(町田好一郎)。◇9月29日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。
ハチクマ ◇9月27日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。
オオタカ ◇9月27日、戸田市道満で成鳥、幼鳥各1羽(高橋達也)。
ツミ ◇10月10日、戸田市道満で若鳥1羽(駒崎政雄)。◇10月18日午前7時、桶川市若宮の自宅付近の上空をカラスにモビングされながら南へ飛ぶ(立岩恒久)。
サシバ ◇9月27日、戸田市道満で18羽以上(駒崎政雄)。◇10月6日、幸手市上吉羽の上空で1羽(秋間利夫)。
チュウヒ ◇9月30日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。草原の上空をV型の翼でヒラリヒラリとカラスのアタックをかわしていた

(駒崎政雄)。◇10月9日夕方、川越市の伊佐沼で1羽。湖水上空から伊佐沼公園の森の方角に、手の届きそうな低空をスーッと滑っていく(中司隆由)。
チョウゲンボウ ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇10月10日、朝霞市宮戸で♂1羽(二村英克)。
オオバン ◇9月28日、富士見市の新河岸川南畑橋下流でカルガモの群れに混じって、黒い体に真っ白な前顔のオオバン1羽(中司隆由)。
トウネン ◇9月25日、深谷市の上武大橋下流で45羽(井上幹男)。◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で4羽(秋間利夫)。
オジロトウネン ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。
ウズラシギ ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。
ツルシギ ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。
コアオアシシギ ◇9月27日、戸田市道満調節池で2羽(駒崎政雄)。
オグロシギ ◇9月27日、戸田市道満調節池で1羽。10月3日には、11羽(駒崎政雄)。
セイタカシギ ◇9月23日、27日、戸田市道満調節池で2羽(駒崎政雄)。
ユリカモメ ◇9月29日、深谷市の上武大橋下流で5羽(井上幹男)。
ツツドリ ◇9月23日、27日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽(駒崎政雄)。
ヨタカ ◇10月3日、朝霞市宮戸で1羽。朝早く起きて空を眺めていたら、角ばった顔に長い翼のヨタカが頭の上を飛んでいった(二村英克)。
アマツバメ ◇9月13日、戸田市道満調節池で1羽(駒崎政雄)。
カワセミ ◇10月17日、午前7時、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。リモコン撮影中、ストロボの上で羽づくろい(町田好一郎)。
アリスイ ◇10月10日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽。枯れ木にとまる(駒崎政雄)。
ショウドウツバメ ◇9月20日、庄和町の利根大堰付近で30羽以上(内藤義雄)。◇10月7日、幸手市上吉羽の中川で50羽以上

(秋間利夫)。

ツバメ ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で1羽(秋間利夫)。◇10月17日、戸田市道満調節池で3羽(二村英克)。

ハクセキレイ ◇10月11日、富士見市の新河岸川、新河岸橋一本染橋間。川を飛び渡ったヒバリ1羽。渡ったとたんハクセキレイ1羽にからまれ、しばらく上を下への巴戦(中司隆由)。

ヒヨドリ(渡り) ◇10月11日、北本市石戸宿で50羽以上の群れと30羽以上の群が南西へ渡る。(立岩恒久)。

ジョウビタキ ◇10月14日、滑川町の森林公園で1羽(内藤義雄)。◇10月19日、三峰山で♀1羽(山岸昭治)。◇10月21日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽。礼儀正しくこちらを向いて、さかんにごあいさつをしてくれた。お久しぶり……(町田好一郎)。◇10月22日、上尾市の春日第2公園で1羽(小貝喜久司)。◇10月22日、幸手市上吉羽の中川で♂1羽(秋間利夫)。◇10月22日、吹上町の元荒川で♀1羽(逸見 嶮)。◇10月24日、桶川市若宮の自宅南側メタセコイアの木で♂1羽(立岩恒久)。

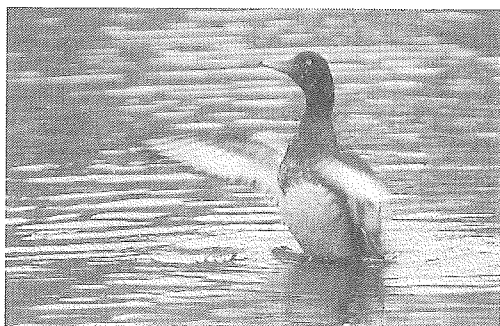
ノビタキ ◇10月3日、本庄市の阪東大橋下流で♂2羽、♀1羽。フライングキャッチを繰り返していた(町田好一郎)。◇10月3日、戸田市道満調節池で1羽(駒崎政雄)。

アカハラ ◇10月9日、川越市の伊佐沼で1羽。ケヤキの古木でさえざる(中司隆由)。

ツグミ ◇10月17日、大宮市大和田の自宅付近で1羽。今秋初認(諸徳寺四郎)。◇10月19日、三峰山で1羽(山岸昭治)。

メボソムシクイ ◇10月4日、戸田市道満の釣り堀横の林で2羽(駒崎政雄)。

キビタキ ◇10月3日、川口市差間で2羽



アカハジロ 浦和市白幡沼で11月25日から長期滞在中 (海老原美夫)

(伊藤芳晴)。◇10月10日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(細井 要)。◇10月15日、戸田市の戸田公園で♀1羽(高橋達也)。

オオルリ ◇10月17日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で若鳥1羽。高い梢をチラチラ。数羽はいたと思われる(新堂克浩)。

サメビタキ ◇10月2日、戸田市の戸田公園で1羽(高橋達也)。◇10月3日、川口市差間で2羽(伊藤芳晴)。◇10月3日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(大森敬造)。

エゾビタキ ◇10月2日、戸田市の戸田公園で2羽(高橋達也)。◇10月3日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で5羽(新堂克浩)。◇10月11日、北本市石戸宿の石戸宿病院の池のほとりの枯れ枝に1羽(立岩恒久)。

コサメビタキ ◇10月10日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(細井 要)。

ヤマガラ ◇9月13日、戸田市道満の釣り堀横の林で2羽(駒崎政雄)。◇10月3日、浦和市秋ヶ瀬で1羽(大森敬造)。

カケス ◇10月6日、幸手市上吉羽の中川で2羽(秋間利夫)。◇10月11日、桶川市若宮の自宅上空をヒヨドリのような声を発しながらフワフワと飛ぶ(立岩恒久)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

キ ジ (キジ科)

「表紙の写真は何にする?」「トリ年だからニワトリの写真はない?」「あのね、ネイチャーフォトだよ」「正月だから、ツルの写真なんてどう?」「あのね、埼玉のネイチャーフォトだよ」「ニワトリの親戚みたいなキジ

ならあるね」「キジじゃ季節感が合わないし」「キジでいいじゃない。1万円札だよ、1万円札。」「そうか、1万円札か、いいじゃない、キジにしようよ」……何という編集会議だ。

海老原美夫(浦和市)

行事あんない



浦和市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月3日（日）

集合：午前9時30分 さぎ山記念公園駐車場
交通：大宮駅東口7番バス乗り場から中野田引返場行き乗車、上野田下車。当日は正月臨時ダイヤで運行されます。なお、浦和駅からのバスは本数が少なく、適当な時間帯に運行されない可能性があります。大宮駅からのバスをご利用ください。

伊豆沼探鳥会

期日：1月9日（土）～10日（日）

定員に達しましたので締切りました。たくさんのご応募ありがとうございました。なお、参加される方には詳しい案内書を送付いたします。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月10日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：06発または秩父鉄道寄居9：03発に乗車
担当：菱沼（一）、森本、林（滋）、関口、菱沼（洋）、斉藤、塚本、中島（章）、川島

見どころ：にぎやかなカラ達。いつも元気なシジュウカラ、やんちゃなヒガラ、ちょっとおすましヤマガラ。冬の林のアイドルたちが、みんなそろってご挨拶。今年も毎月、会いにきてね。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

ガン・カモ類一斉調査

期日：1月15日（金・祝）

集合：午前9時
解散：正午ごろの予定。
平成5年から全国一斉調査がなくなりますが、埼玉県支部では県内一斉調査として、従来通りにカモ類の調査を実施いたします。下記の地点は特に、多くの会員の皆様のご協力をお願いしたい箇所です。なお、本部からのシールと調査結果の発送はありません。

◇久喜市・昭和池

集合場所：昭和池駐車場

担当：登坂久雄

◇所沢市・狭山湖

集合場所：狭山湖堤防の上

担当：三田長久

雨天決行。調査ですので参加費は要りません。これ以外にも、カモがたくさんいる場所がありましたら、カウントして結果を支部までお送りいただければ幸いです。

吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：1月17日（日）

集合：午前9時30分 吉見百穴前
交通：JR高崎線鴻巣駅東口バス停（東海銀行の前）より8：53発東武バス乗車、百穴入口で下車後、徒歩。
担当：榎本、岡安、内藤、吉原、石井（幸）
見どころ：大沼は今年もカモ、カモ、カモ。美しい繁殖羽に変身した雄たちが、沼の冬景色にあでやかさを添えています。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月17日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口、馬場、岡部、嶋田

見どころ：新年のスタートは三室で！という鳥見人にチョウゲンボウ、タゲリ、カワウが飛びます。斜面林ではカケスやシメ、芝川では、たくさんのカモたちが見られます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月30日(日)午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：1月30日(土) ごと2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

久喜市・昭和池探鳥会

期日：1月24日(日)

集合：午前9時45分 昭和池駐車場

交通：JR東北線北岡駅北口バス

担当：松井、林(慎)、馬場、浅田、小林(恒)、五十嵐、入山、山岡

見どころ：トモエガモを探そう。マガモやコガモの大群の中から見つけて下さい。

川口市・差間探鳥会

期日：1月24日(日)

集合：午後2時45分 JR武蔵野線東浦和駅前

解散：東浦和駅付近にて午後5時ごろ。

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：夕日に染まる見沼たんぼ。夕暮れ時、鳥たちはどのように過ごしているのでしょうか。運がよければ夜行性の鳥に出会えるかもしれません。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月24日(日)

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

担当：長谷部、三田、石井(幸)、佐久間、柳原、小野、山本、中村(祐)

見どころ：この探鳥会は前半と後半で趣がちがうのが特徴。前半は入間川でカモやセキレイなどの水辺の鳥を、後半は稲荷山公園でシジュウカラやビンズイ、コゲラなど山野の鳥たちを見ます。その後は芝生の上におべんとうを広げて鳥仲間たちと親睦を深めましょう。

銚子港探鳥会

期日：1月30日(土)～31日(日)

定員に達しましたので締切りました。たくさんのご応募ありがとうございました。なお、参加される方には詳しい案内書を送付いたします。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月31日(日)

集合：午前10時 秩父鉄道長瀬駅前

解散：午後2時頃、白鳥荘にて

担当：林(滋)、菱沼(一)、森本、馬場、新井、小野沢、佐藤、中島(章)、川島

見どころ：オシドリにカワセミ、名物はなげかカラフルな鳥ばかり。その美しい色彩を、観光客のいない静かな長瀬で、ゆっくりお楽しみ下さい。

大宮市・市民の森探鳥会

期日：2月6日(土)

集合：午前8時10分 JR東北線土呂駅東口

担当：馬場、林(慎)、桜庭、工藤

見どころ：芝川では多くのカモが、田園ではツグミやタヒバリなどが、冬を過ごしています。日だまりをのんびりと歩きながら冬鳥の姿を楽しみましょう。

2月7日(日) 石戸宿定例探鳥会
裏妙義探鳥会

2月11日(木・祝) 丸山公園探鳥会
仙元山公園探鳥会

2月13日(土) 黒浜沼探鳥会

行事報告

■9月26日(土)『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア 赤塚義正、荒木恒夫、海老原
 教子、神場真文、北折佳司、鈴木啓紀、墨江
 光子、中村治、中村榮男、藤野富代、山岸重
 雄、渡辺敦、渡辺喜八郎(13人)

モたち、畑にはジョウビタキ、ツグミと冬鳥
 がやってきた。斜面林の大きな屋敷の門の柱
 に、生きているスズメバチの巣があつてハチ
 がぶんぶんとして飛んでいた。鳥だけでなく自然
 全体を楽しんだ一日でした。(楠見邦博)

■10月4日(日) 北本市 石戸宿
人 26人 **天気** 曇時々晴 **鳥** カルガモ
 コジュケイ キジ バン キジバト カワセ
 ミ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ シジュウカラ ホオジロ
 スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス
 ハシブトガラス(18種) あちこちで聞くモズ
 の高鳴きに秋の深まりを実感。カワセミが3
 回出現し、オレンジ色のお腹とコバルトブル
 ーの背中をじっくり観察。あずまの前の池
 の水面に咲く淡いピンクの可憐な一日花ミズ
 オオバコを鑑賞。ツリフネソウの群落が花盛
 り。散会后、食事をしている頭上にオオタカ
 がゆっくり舞った。残念だがこれはカウント
 されず。学習センターで町田幹事のビデオを
 放映。福井鳥獣保護員からの説明を聞いた。
 (岡安征也)

■10月31日(土)『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア 赤塚義正、荒木恒夫、海老原
 美夫、角田真喜子、神場真文、金川一、北折
 佳司、楠見文子、桜庭勇、馬場昇、山岡百合
 子、渡辺敦、渡辺孝章、渡辺光行(14人)

■10月18日(日) 浦和市 三室地区
人 89人 **天気** 晴 **鳥** カワウ チュウサ
 ギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ
 オナガガモ バン イソシギ タシギ シラ
 コバト キジバト コゲラ ヒバリ キセキ
 レイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨ
 ドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ
 ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
 カケス オナガ ハシボソガラス ハシブト
 ガラス(30種) 秋晴れにたくさんの参加者が
 鳥を見に集まった。86名の参加者は歴代4位
 の数字であり、子供たちも多く、楽しい探鳥
 会であった。鳥たちも、芝川にたくさんのカ

■11月1日(日) 上尾市 丸山公園
人 27人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ カワ
 ウ コサギ タカSP コジュケイ キジ
 タゲリ キジバト カワセミ コゲラ キセ
 キレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジ
 ョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジ
 ロ ホオジロ アオジ シメ スズメ ムク
 ドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハ
 シブトガラス(27種) 各地でバードソンが展
 開されたこの日、初の試みとして丸山公園で
 もミニ・バードソンに参加することになった。
 多数の参加者に調子は良好。中にはピッタリ
 賞の人もいた。賞品は、オオセッカの繁殖地
 を守る運動に参加できたこと。それが何より
 うれしい。公園内ではシメ、アオジ、カシラ
 ダカの冬鳥たち、人気者のカワセミをじっく
 り観察。秋晴れの時を楽しんだ。(乗田 実)

■11月1日(日) 富士見市 柳瀬川
人 50人 **天気** 快晴 **鳥** カワウ コサギ
 マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オ
 ナガガモ チョウゲンボウ タゲリ イソシ
 ギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ
 ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
 ヒヨドリ モズ アオジ カワラヒワ スズ

ムクドリ ハシボソガラス(24種) 良い
天気恵まれ、タゲリも数こそ例年より少
なく2~3羽だったが、開始早々から全員が見
られ、上々のスタートだった。タヒバリをじ
っくり見たり、チョウゲンボウが飛んだりし
たが、天気が良すぎたのか鳥は思ったほどで
はなかった。県外からタゲリが見たくて来た
人もいたので、とりあえずタゲリがじっくり
見られたのでホッとした。(藤原寛治)

■11月3日(火、休) 吉見町 吉見百穴周辺
△ 50人 天気 快晴 鳥 カイツブリ コ
サギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシ
ガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジ
ロ キンクロハジロ キジ タゲリ キジバ
ト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセ
キレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ
ジョウビタキ ウグイス シジウカラ メ
ジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズ
メ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス(33種) 集合場所でバ
スの到着を待っている間、はやくもジョウビ
タキ、3種のセキレイ、タゲリが出現。市野
川ではカワセミを堪能した。大沼では8種の
カモを観察。田圃に出てみたがタゲリの姿が
見られず残念。帰り道、短大近くでノスリ出
現。風もなくのんびりと過ごした自然観察の
ひとときでした。(岡安征也)

■11月3日(火、休) 浦和市 秋ヶ瀬
△ 40人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワ
ウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ オナガガモ ハシビロガモ チョウ
ゲンボウ コジュケイ タゲリ ハマシギ
タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ
コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ヤマガラ シジウカラ メジロ ホ
オジロ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ
スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス
(37種) 好天に恵まれたため40名参加。タシ
ギ、ユリカモメ、カワセミ、アオサギ、ハマ
シギ、マヒワ等々。ダイサギとコサギが並ん
でくれて、識別の勉強を楽しんだ。シラコバ

トが出なかったのが心残り。ヤマガラ、マヒ
ワ、カワセミを見られなかった人、ごめんな
さい。次のチャンスをお待ち下さい。

(福井恒人)

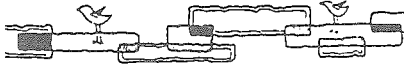
■11月8日(日) 熊谷市 大麻生

△ 37人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサ
ギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ
ハシビロガモ ノスリ タカSP イソシギ
キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タ
ヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツ
グミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジウ
ウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ア
オジ クロジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブ
トガラス(38種) 季節はずれの台風が心配で
あったが、当日は天気も良くおだやかな日と
なった。堤防に上がると早速ジョウビタキが
出迎えてくれた。しかし、ゴルフ場には鳥た
ちの姿は少なく、野鳥の森を抜けてから、や
っと全員でヤマガラを観察できた。河原では、
タカSPが多くのカラスにモビングされて、
疲労困憊の様子。お目当てのカモたちは、釣
人がいたので、はるか彼方であった。カモや
ツグミの姿がほとんど見られなかったので、
初めての人は物足りなさを感じられたかもし
れないが、終わってみれば38種と玄人好みの
探鳥会だった。(鳥合わせでクロジが抜けて
いました。追加して下さい。)(菱沼一充)

■11月8日(日) 川口市 差間

△ 20人 天気 晴時々曇 鳥 カワウ コ
サギ カルガモ コガモ オオタカ チョウ
ゲンボウ キジバト コゲラ ヒバリ キセ
キレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ
モズ ウグイス シジウカラ メジロ ホ
オジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(25種) 先月に続いての探鳥会。野辺はもう
冬支度。アシ原は刈られ、見渡す限りの荒野。
天高く舞うオオタカ、チョウゲンボウ、色づ
き始めた斜面林を遠く眺めながら、さわやか
な晩秋の1日を楽しみ歩いた。(手塚正義)

連絡帳



千歳川放水路問題ハガキ作戦

千歳川流域の治水対策の必要性を軽視するわけではありません。しかし、現在の放水路計画は、河川工学上からも大きな問題があり、周辺の自然環境、とりわけラムサール条約登録湿地であるウトナイ湖とその源流部の美々川に、回復不可能なダメージを与えるものです。そこで、サンクチュアリのあるウトナイ湖を守るために、日本野鳥の会では、千歳川放水路計画に反対するハガキ作戦を展開中です。

詳しくは『野鳥』12月号などをご覧いただきたいのですが、12月の内閣改造で宛て名が変わりました。あなたの声を、直接日本政府にお送りください。

- 100 東京都千代田区霞ヶ関1-2-2
環境庁長官 林 大幹 様
- 100 東京都千代田区霞ヶ関3-1-1
北海道開発庁長官 北 修二 様
文面要旨「千歳川放水路計画を中止してください」

NHK紅白歌合戦出場者推薦見合わせ

また例のカウントへの出場依頼があったので、埼玉県支部からも推薦してほしいとの連絡が、本部事務局からありました。しかし、期限がほんの2～3日以内にということで、とてもムリ。支部事務局としては出場者推薦見合わせ。本部事務局のほうから個人的に連絡するということになりました。

青森県支部から礼状

1992年バードソンへの協力について、對馬昭三支部長名で礼状が届きました。

集まった募金で、ただちにオオセッカの繁殖する仏沼の土地を買い上げ、「おおせっか村」作りに取り組みます。

銀行ロビー展開催

11月1日～30日、三菱信託銀行大宮支店において、秋から冬にかけての野鳥写真展を開催。支部の歴代コンテスト入選作品パネルの中から、30点を展示しました。

1月の土曜日当番（2時～6時）

- 2日 事務局休み
- 9日 阿久沢キクエ 伊藤芳晴
- 16日 山部直喜 海老原美夫（編集会議）
- 23日 石川敏男 川島正治
- 30日 袋づめの会（1時から）

会員数は

12月1日現在 2,013人です

活動報告

- 11月8日 アズ熊谷パネル展撤去作業。
- 11月12日 本部理事会30万人部会（海老原）。
- 11月14日 『しらこぼと』編集会議（12月号編集作業など）。
- 11月15日 役員会議（司会・登坂久雄、各部及び鳥獣保護員からの報告・評議員会出席者について・その他）。
- 11月21日 『県北見て歩き』の第2回編集会議。



皆様、明けましておめでとうございます。

私は昨年埼玉新聞に連載された『埼玉自然ふれあいの時』を楽しみにしていました。表現が自然体で柔らかく、思わず二度三度と読み返しているうちに、日々の仕事に追われながらも細切れの時間をかき集め、自然とのふれあいを楽しんでいる書き手の姿を、行間に読み取ることができました。今年はトリ年。今年こそ、トリたちにとってよい年でありませうように……。 （山部直喜）

『しらこぼと』1993年1月号（第104号） 定価 100円（会員の購読料は会費に含まれます）
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
 印刷 望月印刷株式会社 （本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします）